

9月9日は救急の日

(4)

「救急の日」は、昭和57年から、救急業務などに対するみなさんの正しい理解と認識を深め、意識の高揚を図ることを目的に、毎年9月9日が「救急の日」、そして救急の日を含む一週間（日曜日～土曜日）が定められています。

救急車の正しい利用にご協力を！

近年、全国的に救急車の出動件数が増えており、それに伴い、救急隊の現場までの到着時間は遅くなっています。当市の平成22年中の救急出動件数は、2,090件です。しかし、救急車を要請した人の約半数が入院の必要のない軽症者で、この中には、本来、救急車を利用する必要がなかった人もいます。

例えば、「風邪をひいた」「熱がある」「歯が痛む」「指を切った」といった軽い症状の場合には、本当に救急車を呼ぶ必要があるのかどうか考えてください。また、緊急性がなく自分で病院に行ける場合や定期的な通院などでは、タクシー代わりに救急車を要請することはせず、一般の交通機関を利用しましょう。判断に困った時は、消防署に電話し相談をしてください。

幸手市では、3台の救急車で救急要請に対応しています。緊急性を要しない利用が多くなると、本当に救急車が必要な人に速やかに出動させることができません。

市民のみなさんの救急車の正しい利用で救える命を救いましょう。

こんな症状は迷わず119！

心筋梗塞・狭心症のおもな症状

- ・ 突然の前胸部の激しい痛み・圧迫感（痛みが強くない場合もある）
- ・ 冷や汗をかく
- ・ 動悸、息切れがある
- ・ めまいや吐き気が起こる
- ・ 首、肩、背部、左腕、腹部が痛むこともある

脳卒中のおもな症状

- ・ 突然の激しい頭痛
- ・ ろれつがまわらない
- ・ ものが見えにくい
- ・ 片方の手足に「力が入らない」「動かせない」「しびれる」

～ 上級救命講習会のご案内 ～

と き 9月10日（土）午前9時～午後5時
ところ 消防署西分署
内 容 すべての年齢に対する心肺蘇生法や
そのほか応急手当について
問合せ 消防署 ☎(42)9119・FAX(42)9117

いざという時の

お役立ち情報

小児救急
電話相談

埼玉県救急医療
情報センター

子どもが急病（発熱、下痢、嘔吐など）のときの家族での対処方法や、受診の必要性について看護師が電話で相談に応じます。

電話番号 NTTのプッシュ

回線をご利用の場合／

#8000

IP電話、ひかり電話、ダイヤル回線をご利用の場合／

048(833)7911

相談時間 月曜～土曜日／

午後7時～11時

日曜、祝日、年末年始／

午前9時～午後11時

利用上の注意

この電話相談は、子どもの急な病気やケガについての相談に応じるものです。育児相談などには応じられません。相談は助言を行うものであり、診断や治療を行うものではありません。

休日や夜間、または救急車を呼ぶほどではないが、緊急に受診が必要なときに受診可能な医療機関のご案内をします。

電話番号

048(824)4199 よい救急

※24時間対応。

利用上の注意

① 医療機関数に限りがあるため、すべてのお問い合わせにお答えできるとは限りません。

② 医療相談のお答えはできません。

③ 歯科、口腔外科、精神科のご案内はしていません。

④ 案内された医療機関を受診する場合は、必ずその医療機関に電話で確認をしてから出かけましょう。

広島平和記念式典に 参加して

8月5日(金)広島市で開催された広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に、市が募集した「平和の作文」で最優秀、特選に選ばれた中学生6名が参加しました。平和記念公園の慰霊碑、記念碑、原爆ドームの見学、そして原さん(語り部)による原爆体験を聞くなど、平和の尊さについて改めて考える貴重な体験をしました。

問合せ 人権推進課☎(43)1111 内線162

▲体験を語る原さん(語り部)

参加生徒の「コメント」

「実際の恐ろしさは、平和記念資料館で伝えられている事よりも、もっと恐ろしくて残酷です。」と原さんは語っていました。

資料館を見学している時も、見たくない物がたくさんあったけれど、これ以上に恐ろしかったんだと考えると、胸が痛いんです。教科書でしか原爆ドームを見たことがなかったけれど、実際に間近で見ると寂しくなりました。

午前8時15分から1分間の黙祷。平和を願う、すべての人たちの心がひとつになった瞬間を感じ、「平和を築き、守り続けていくこと」を誓いました。

平和記念式典に参列するという、貴重な経験をさせていただけただけに感謝しております。この経験を機に、改めて平和の大切さを、切実に感じる事ができました。

原さんの被爆体験談を聞き、平和記念資料館を見学

したことで、原爆に関する知識と現実とは、あまりにかけはなれていると思います。知らされました。

66年経過した今では、当時の話を原さんのような被爆者から聞くことしかできません。しかし、いずれは聞けなくなってしまうです。

この原爆や戦争の恐ろしさは、つぎの世代に伝えていかなければならないと思いました。

「平和」の灯火というものがありました。この火は、1964年からずっと燃え続けており、地球上から核兵器が消えた時、この火も消えるそうです。

核兵器をなくし、世界中が平和に包まれてほしい。そして一刻も早く「平和の灯」を消してほしいと思いました。

教科書やビデオで見た以上に、被害が大きいことを、原さんの話から知ることができました。66年前の夏、実際に被害にあわれた方々や今もその後遺症に苦しんでいる方々の気持ちを考える

と、核兵器を、一刻も早くなくさなければならぬと改めて感じました。

今度は私たちがその事実を、後世に伝えていかなければならないと感じました。

たくさんの方が式典に向かって歩くなか、私もその一人として歩きました。途中「受け取ってください。」と戦争の真実を訴えるチラシを配る方がたくさんいて、平和を願う気持ちが伝わり、熱くこみあげてくるものがありました。

私達のために生きて下さった方々を決して忘れてはなりません。先人の期待に答えるため、平和を思い、考え、愛したいです。



▲原爆ドームを背に集合写真